

神戸市介護サービス協会だより

神戸市介護サービス協会 〒651-0086 神戸市中央区磯上通3-1-32 神戸市社会福祉協議会内
TEL 078 (271) 5326 FAX 078 (271) 5366
URL <http://www.kaigo-kobe.net>
E-mail kaigo@with-kobe.or.jp

◆ C O N T E N T S ◆

神戸市高齢者介護士認定証授与式……………	1	ハートフルフェスタ……………	7
H29年度第2回研修会……………	2	協会の活動状況……………	8
神戸市高齢者介護士認定者との意見交換会……………	3	第3回研修会案内……………	8
「成年後見制度」シンポジウム……………	3	個別加入のご案内……………	8
H29年度第1回研修会……………	4・5	編集後記……………	8
笑顔のゲンキ……………	6		

平成29年度 神戸市高齢者介護士認定証授与式を行いました

平成29年11月7日に神戸市医師会館において、平成29年度第2回研修会に引き続いて、今年度の神戸市高齢者介護士認定者18名への認定証授与式を行いました。

認定証授与式にあたり松井理事長は、「現在、介護現場の人材不足は喫緊の課題であり、様々な取り組みが行われている。外国人介護職に対する期待も大きくなっており、実際に今年度の神戸市高齢者介護士の認定試験には5名の外国人介護職の方が受験された。当協会においても、介護現場への理解・福祉人材確保に向けた市民啓発を考える小委員会を立ち上げ、地域のイベントでの啓発活動等を通じて、介護という仕事のやりがいや楽しさを伝えていきたい。」とあいさつしました。

続いて、神戸市の三木保健福祉局長から、「介護保険制度発足以来、介護職員の平均の在職年数は3年位でありあまり変わっておらず、介護事業者はいかに介護人材を集めるかが最大の苦労であると聞いている。また、介護サービスは人間相手の仕事なので、いつトラブルがあるか、クレームがつくかわからない中、日々緊張感を持って施設運営をしていただいていることにお礼を申し上げたい。今後も、神戸市として介護人材確保についての支援策を考えていきたい。」とごあいさつをいただきました。

その後、三木保健福祉局長より今年度の認定者一人一人に認定証が手渡されました。閉会にあたっては、神戸市高齢者介護士委員会の藤井委員長より「当制度は、介護現場で中心となって働く職員が集中して受けやすいように、毎年カリキュラムの内容をバージョンアップしながら実施している。受講修了者が、介護福祉士の資格を取るなど、職員にとって勉強のきっかけになるよい制度だと思う。神戸市及び関係者の皆様には当制度の一層の周知や広報をお願いしたい。」とあいさつがありました。

認定証授与式の前に開催された第2回研修会では、アプロクリエイト 代表の裴鎬洙氏より「理由を探る認知症ケア」と題して講演をいただきました。



講演の要約は次ページです（文責：事務局）

講演『理由を探る認知症ケア』

講師 アプロクリエイト 代表 裴 鎬洙 (ペ ホス) 氏

「何これ？どうなっているの？」

「なんかワケがわからない…どうしよう」

「いったいどうしてほしいのよ！」

Q. 誰の体験？介護する人？利用者？

A. どちらにも当てはまる。

認知症ケアは、介護する側（専門職も）、介護を受ける側、どちらも根底にあるのは戸惑いと混乱。

知らない人が訪ねてきて「こんにちは。ヘルパーの〇〇です。先週も来ましたよね。」と記憶にないことを言って家に中に入ってくる。息子の話もしている。何で息子の名前も知っているの？

ヘルパーは思い出して欲しくて、色々なエピソードを話しているが、そのことが本人に戸惑いと混乱を作っているかもしれない。

BPSD（認知症の周辺症状）は起きないのが基本

BPSD を起こさないために、BPSD が何故起きたのかを知る必要がある。理由を探る。その人のことを観察し、情報を集める。

理由を探る認知症ケア＝その人に関心を寄せ続けるケア

コミュニケーションの3段階

①五感を通して情報を受け取る

見て、聞いて、におって、味わって、さわって受け取る。

②受け取ったことから、反応・触発が起きる

考え、思い、解釈、分析、推測、判断、決断、配慮 等。

③その結果、表出する

言葉、表情、行動として表にあらわす。

例：①相手の顔を見る→②元気がないと思う→③声掛けをする

①一口食べて→②味が薄いとを感じる→③調味料を足す

①時計を見る→②時間がないと判断する→③急ぐ

他者との会話だけでなく、

人は常に自分と自分以外のものとコミュニケーションしている。

他者の行動を見たり、聞いたりすると、この人の中でどんな反応や触発が起きているのか推測する。その言動を変えて欲しい時、説明したり、説得したりして、自分たちと同じ反応や触発が起きて欲しいと働きかける。

認知症の方に働きかけても変わらないのは「その反応、触発は認知症のせい」と結論付けていないか？

何でも認知機能の問題にしてはいけない。その人が、どんな状況で、何を見聞きして、何を受け取ったかを見ないといけない。言葉だけで相手の言動を変えようとしても無理。

人は色々なものに影響を受けている

人の言動に影響を与える4つの要因

身体的要因＝熱発、寝不足、空腹、便秘、薬の副作用 等

心理的要因＝寂しい、悔しい、不安、うれしい、楽しい 等

※きっかけになる出来事があって心理的反応が起きる。

寂しいからナースコールを押す？＝寂しくなるきっかけを探らないと解決しない。

環境的要因＝気温、明るさ、音、周りの人 等

（その時テレビに映っていた番組なども要因になる。）

個人的要因＝生活歴、習慣、好み、性格 等

場面をアセスメントする

●入居者 A さんは夕方になると家に帰ると言う。

→ A さんの性格や好み、生活習慣等を探る。

もともと夕方 4 時頃に晩御飯を作っていた（個人的要因）家族のご飯を作り帰ろうとした？

●ある日、A さんが午前中に帰ると言い出した。

→スタッフが、もうすぐお昼ご飯なのでと言って収めた。

●3 時頃にも帰ると言い出した。

→おやつを食べてから帰りましょうと言って収めた。

→夕方の申し送り時、A さんの帰宅願望について探る。

「食べる物があると何とか収まりそう」という対処法だけを見てはいけない

午前中と3時は別の場面なので、それぞれの時間帯の「身体・心理・環境・個人的要因」を別々にとらえることが必要。「個人的要因」は変動は大きくないが、「身体・心理・環境」は刻々と変化しているものなので、その違いと共通点を押さえることがアセスメントでは重要。

チームで「場面」をアセスメントするコツ

①会話のやりとりから場面を描く

②利用者目線で「場面」を巻き戻す

③別の時間の話は、「別の話」として切り離す

④“違い”と“共通点”を発見する

認知症の人に物を渡すと「ありがとう」と言われる。認知症に理解のない人は「この人、認知症なのにありがとうって言えるの？」と思うかもしれない。

認知症で記憶が寸断されていても、今この瞬間に起きていることに反応する力はあまり落ちない。

自宅のお風呂に入ってくれない方についての相談

いつ、どこで声掛けをしている？

→リビングのベッドで横になっている時に「お風呂に入りましょうか」と声かけ。→拒否される。

リビングでお風呂の話？イメージができていないのかも・・・

→風呂場に湯気が充満している状態で、脱衣所まで連れていき、「お風呂が沸いているので入りましょうか？」と声をかけたら「それなら入ろうか？」と入ってくれた。

※これは、目の前のことに反応する力を活かしたケアの工夫の一つ。

“快”の時間を増やし、“不快”の時間を減らすケア

人は生きている限り、喜怒哀楽や快・不快はある。

不安や不快をゼロにはできない。（ゼロにする必要もない）

完璧を目指すのではなく、よりよい状態を作っていく。

神戸市高齢者介護士認定者との意見交換会

神戸市高齢者介護士認定証授与式の後に、今年度の認定者及びその上司と神戸市・協会関係者の意見交換会が行われました。今年度は、現在の施設・事業所での経験が3年未満のため認定は次年度以降になる試験合格者の方にもご参加いただきました。いただいた意見の一部を紹介します。

- ◆ 自分は資格も経験もなくこの業界に入り、施設で教えられたことを覚えてきた。認知症の方への対応など「この人がこういう行動をした時はこうすればよい」という対応方法だけ教えてもらい、認知症の周辺症状のことなど知らずにきたので、今回学んだことにより「こういう時はこういうこともできるのではないか」という自分の意見も言えるようになり、よかったと思う。（認定者）
- ◆ 介護福祉士国家試験を受験予定なので、この試験が役に立つと思い受験した。私たち外国人は、講師の授業を100%は理解できないが、ノートの作り方を教えてもらい、作ってみた。試験には作文もあるが、試験前に、難しい漢字はひらがなでもよいと聞いて安心した。合格して本当によかった。（合格者）
- ◆ 今後、介護福祉士を受験する後輩が何人かいるが、自分で勉強するよりも講師の話を聞く方が頭に残りやすいので介護福祉士国家試験対策としても勧めたい。（認定者）
- ◆ 身体の仕組み等を教わり、例えば、利用者の立位補助の時に足の位置は正しいか、無理に立たせていないか等を考えて気を付けるようになった。（合格者）
- ◆ 講習を受けて、何のためにプランがあって、目標のためにサービスがあるということが理解できた。利用者の力を引き出し、活かすためのサービスだと理解できた。（認定者）
- ◆ 介護福祉士を受験した時は無我夢中で勉強し合格したが、わからない部分もあったままだった。もっと勉強しなければと思いつながら、日々の生活に追われてなかなかできなかったが、今回、新たな気持ちで勉強できた。介護福祉士の試験にはなかった、接遇、マナーの講義を受講し、利用者に挨拶する時、利用者家族と接する時など、改めて笑顔の大切さを感じ、勉強になった。（認定者）
- ◆ すでに介護福祉士を取得していた職員だが、さらにレベルアップするために受験を勧めた。施設を運営する側からしてもこのような研修は大変有効であり、各団体で実施している研修会も含め、神戸市内の全ての施設・事業所が参加できる研修会をまとめて再編し、神戸市全体で共通のものさし作りが出来ないか検討いただきたい。（上司）
- ◆ 講義を受けたことにより、これまでしてきたケアの内容に意味づけができるようになったという意見を聞いてうれしく思う。17年前、介護保険が始まった頃の状況からすると、介護の内容も対象も非常に複雑になってきている。今回の講習はほんの基礎に過ぎないので、今後はそれをより専門的に深めて、力を発揮していただきたい。一緒に深めていく仲間を増やし、2025年に向かって、中堅になり、管理者になっていく皆様とまた一緒に勉強ができればよいと思う。（余田副委員長）

神戸シルバー法律研究会・第三者後見ネットワーク連絡会シンポジウム

「利用者からみた成年後見制度」～どう守る？「本人」の権利～

日 時：平成30年2月17日（土）午後1時30分～4時30分

会 場：たちばな職員研修センター 3階 研修室（神戸市中央区橘通3-4-2）

内 容：基調報告 ～権利擁護に真に役立つ利用促進のために～

村上 英樹 氏（弁護士 神戸シルバー法律研究会代表幹事）

パネルディスカッション ～利用者からよせられた声をうけて～

対 象：福祉・保健・医療等の関係者および、このシンポジウムに関心のある方

主 催：神戸シルバー法律研究会・第三者後見ネットワーク連絡会／社会福祉法人神戸市社会福祉協議会／神戸市

申込方法：神戸市社会福祉協議会ホームページより申込書をダウンロードし、FAXまたはEメールにてお申込みください。

申込・お問合せ先：神戸シルバー法律研究会事務局（神戸市社会福祉協議会 こうべ安心サポートセンター 担当：佐竹）

TEL (078) 271-5358・FAX (078) 271-2250

神戸市社会福祉協議会ホームページ <http://www.with-kobe.or.jp>

参加費：無 料

定員：160名
（先着順）



平成29年度総会・第1回研修会を開催しました。



平成29年9月21日に、こうべ市民福祉交流センターにおいて、平成29年度総会・第1回研修会を開催しました。

開会にあたり、松井理事長より「厚生労働省に社会保障費の財源の確保と介護職以外の職種も含めて介護人材の処遇改善を要望した。人材の「ざい」は財産の「財」であり、その財産を大事にしなければ介護保険制度はうまくいかない。協会としても引き続き介護サービスの質の向上に向け活動していきたい。」とあいさつをしました。続いて、事務局から平成28年度事業報告・決算、平成29年度事業計画・予算の報告を行いました。

引き続き、第1回研修会を行い、公益社団法人神戸市歯科医師会 高齢者福祉委員会委員の杉本勝一氏より「おいしく安全に食べるための口腔ケア」と題してご講演をいただきました。その後、公益社団法人兵庫県栄養士会 理事の三谷加乃代氏より「高齢者の栄養改善・食生活の工夫」と題してご講演をいただきました。

講演の要約は以下のとおりです（文責：事務局）

講演1 「おいしく安全に食べるための口腔ケア」

講師：公益社団法人神戸市歯科医師会 高齢者福祉委員会委員 杉本 勝一 氏

歯と口腔の働き

摂食、嚥下、味覚、脳への刺激、免疫物質の分泌、感情表現、異物の認識と排除、体の平衡感覚の維持、構音、発音 等

- ・硬いものが食べにくくなった
 - ・むせやすくなった
 - ・口が渇く
- **口腔機能低下の危険信号!!**
→生活全体が不活発になりがち
- ◎**歯の多い高齢者は活動的** 自分の歯で噛める人、自分の歯はなくても入れ歯を使用している人は寝たきりになりにくい。

口腔ケアの効果

口腔疾患の予防（虫歯、歯周病）、感染症の予防、誤嚥性肺炎の予防、摂食嚥下障害の改善、口腔内の爽快感、食欲増進→体力の維持、回復→ADLの向上→社会性の回復

口腔内観察のチェックポイント!!

- ①**ウ蝕（虫歯）** 歯の詰め物の周りに段差がないか、欠けていないか。歯と歯の間や義歯のバネがかかる歯に汚れがたまっていないか。
 - ②**歯周病** 歯茎の色、形、腫れ。正常な色は薄いピンク色。歯槽膿漏になると出血、出膿がある。
 - ③**義歯** 義歯が合っているか。下の歯茎が赤くなっていないか。
 - ④**歯垢・口臭** 歯垢=歯の上についたやわらかい汚れ。歯ブラシでこすって取る。→口臭、歯茎の腫れの軽減。
歯石=カルシウムが石灰沈着したもの。機械による除去が必要。
 - ⑤**舌苔** 舌につくコケ状のもの。麻痺があると麻痺側につきやすい。
 - ⑥**口腔粘膜** 高齢者は唾液の分泌が減り、口の中が渇くので、食物残渣や汚れが取れにくい。口腔内の潤いを補充することも必要。
- ◎**日常的なケアで除去できないものは専門職に依頼する。**

口腔ケアの道具

- ・歯ブラシ=色々な種類がある。毛先が開いてしまうと交換。
- ・ワンタフトブラシ=孤立した歯、奥歯の磨きにくいところに使用。
- ・歯間ブラシ=歯垢を落とすにはナイロンブラシのものが有効。
- ・舌ブラシ=舌表面の掃除をする。
- ・スポンジブラシ=水で濡らして口腔内の清掃に使用。水を含ませて舌の表面を湿潤させると口腔乾燥にも有効。

義歯

- ・義歯を装着し噛み合わせができると、歩行が安定し、全身にもよい影響を及ぼす。噛み合わせが安定しないと、踏ん張ることができず、転倒の可能性が高い。
- ・義歯が不潔だと、誤嚥性肺炎、感染症のリスクが高くなる。

《義歯の清掃方法》

- ・毎食後、歯ブラシや義歯ブラシを使い流水で洗う。
- ・落としても割れないように水を張った洗面器等の上で洗う。
※特にバネがついている部分は汚れが付きやすいので注意!
- ・義歯洗浄剤は、毎日必要ということではない。補助的に使う。
- ・就寝時は義歯をはずす。入れたままだと粘膜を押さえつけた状態になり、炎症の原因になる。

嚥下のしくみ

食べ物を認識し、口の中へ取り込む

第1相（口腔相） 嚥んで喉の奥へ送り込む。

↓ ※自分の意思で飲み込む動作を中断させることが可能。

第2相（咽頭相） 咽頭から食道へ物が流れ込む。

↓ ※この段階になると自分の意思では戻すことができない。

第3相（食道相） 食道から胃へ到達。（約4秒～6秒）

嚥下における義歯の役割

- ・下顎が固定され、舌先の位置が定まり、飲み込み動作が改善される。
- ・しっかり咀嚼すると食塊が形成され食道に流れる。咀嚼不十分だとバラバラになった食物が周りに分散されて誤嚥が起こる。
※むせの原因=食べ物の固さ、大きさ、水分量。
飲み込むときの姿勢、介助の仕方。

誤嚥性の肺炎

- ・口腔内の常在細菌を誤嚥吸引することにより引き起こされる肺炎。
- ・高齢者の肺炎の1/3は誤嚥性肺炎。
- ・口腔ケアを行うことで40%減らすことができる。

口腔機能改善のための口腔体操

- ①口を開けたまま、舌を前方に突き出す
- ②口を大きく開けて、舌を上顎につける
- ③口を開けたまま、舌を左右に出す
- ④口を開けて、舌先で唇をなめる

しっかり嚥んで食べると、

- ・唇、頬、舌の筋肉が鍛えられ、嚥下機能、飲み込む機能が高まる。
 - ・首の筋肉も鍛えられ、姿勢がよくなり、歩行にもよい影響を及ぼす。
 - ・唾液が出て、口の渇きが改善され、消化促進される。
 - ・脳が活性化して認知症の予防につながる。
 - ・話す、笑う、表情を作りやすくなる。
- 歯があると、笑顔が出て、前向きになる。**



講演2 「高齢者の栄養改善・食生活の工夫」

講師：公益社団法人兵庫県栄養士会 理事 三谷 加乃代 氏

食べて、必要な栄養素を体内に取り込み、生命維持をする一連の営みを「栄養」と言う。

8月4日は栄養の日

栄養週間 8つのポイント

1. リラックスしてとにかく楽しく
2. よりよい睡眠は朝ごはんから
3. 偏った生活に+1でバランスを。
4. 効率よく食べよう。(低栄養の方には高栄養のチーズ等)
5. 運動後には水分をとる。(体の中の水分は60%)
6. 季節に応じた、伝統的な食。(旬のものは栄養化も高い)
7. 塩分カット。舌を意識する。(素材の味を楽しむ)
8. わからないことは管理栄養士・栄養士に聞いてみよう。

必要栄養量

1. エネルギー量

人は座っている状態でも筋肉を使い、脳も使っている。寝ているだけでも代謝が起こる。

人それぞれ必要なエネルギー量はちがう

(性別 年齢 仕事 身長 体格 病気の有無)

体重×25～35 (kcal/kg/日) ※肥満・やせの方は標準体重で計算

2. たんぱく質量

筋肉を作る素 (肉、魚、卵、大豆たんぱく等)

体重×1.0～1.2 (g/kg/日)

(腎機能低下の場合は0.6～1.0g/kg/日)

3. 水分量

体重×30～40 (ml/kg/日)

高齢者は少なくなりがち。

手の甲をつまんで、離してもすぐに戻らない＝脱水のサイン

食事量 = **活動量** → 体重維持

◆ バランスが取れている＝今の食事が適量

食事量 > **活動量** → 体重増加

◆ 食べ過ぎ、運動量が少ない(ロコモ)＝食事量を減らしてみる

食事量 < **活動量** → 体重減少

◆ 激しいスポーツ、エネルギー量が足りない＝食事量を増やす

高齢者で **食事量減少↓** **活動量減少↓** → 体重が増加 (むくみ?)

◆ 疾患が隠れている場合もあるので医師に相談

適正な体重とは? (標準体重)

最も健康的に生活ができる理想的な体重 ※男女問わない

標準体重 (kg) = 身長 (m) × 身長 (m) × 22

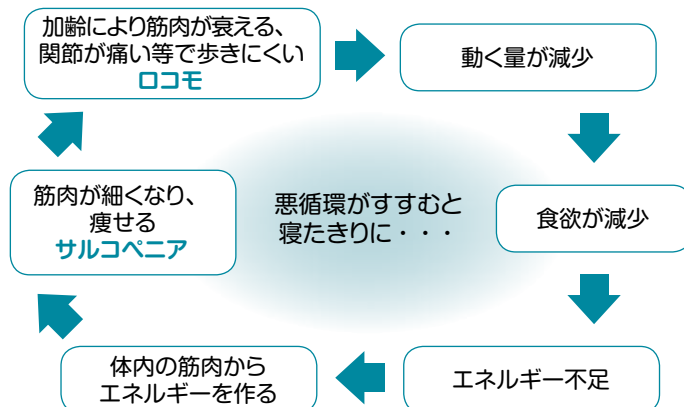
体重を計る習慣をつけよう!

※ BMI = 体重 (kg) ÷ 身長 (m) ÷ 身長 (m) が18.5以下はやせ、25以上は肥満

高齢者のための栄養スクリーニング (MNA-SF)

● 主観的ではなく点数化して、低栄養の人を早期発見し、栄養状態の改善をはかる。(過去3カ月の食事量、体重の減少、歩行、ストレス、疾患等)

●ロコモは要介護への入り口



●血糖値

- ・食事が不規則、偏った食事で糖質が多い等
- 血糖値のコントロールがうまくいかない。
- 血糖値を下げる薬を飲む+食べる量が少ない
- 低血糖に注意! 低血糖を起こす機会が多いと認知機能が低下する

糖尿病食＝健康食

- ・糖尿病食は制限食ではない。適切な食事量と栄養バランス。
- ・ごはん (主食) を食べないようにという指導はしない。
- ごはんも野菜・果物も肉・魚もバランスよく食べる。
- ※ 外食の場合もバランスよく食べるよう気をつける。

6つの基礎食品群

- | | | |
|--------|---------|---------------|
| ①炭水化物 | ②脂肪 | = エネルギーのもとになる |
| ③たんぱく質 | ④ミネラル | = 体をつくるもとになる |
| ⑤カロテン | ⑥ビタミン C | = 体の調子を整える |

! 果物は血糖値が高くなりやすい。

! 炭水化物抜きでたんぱく質ばかりだと腎臓に負担がかかる。

! 副食 (おかず) が多いと塩分量も多くなる。

! 御飯は塩分を含まないが、パン・麺には塩が入っている。

! 先に野菜を食べると血糖値が上がりにくくなる。

! 牛乳は安価で高栄養、高エネルギー。カルシウム豊富で吸収率が高い。とろみがあってむせにくく飲みやすい。

! トマトは手軽に食べることができ、水分も取れる。リコピンの作用で風邪予防。うまみ成分のグルタミン酸により減塩効果もある。

◆簡単アレンジ (低栄養対策)

- ・ごはん、きゅうり、キムチ、ちりめんじゃこ、卵、納豆の献立
- = 栄養バランス的にはよいが、一度に食べられない
- 全部刻んで丼物にすると咀嚼しやすくなり食べやすくなる。
- ・減塩で薄味ばかりになると食欲が低下する
- トマトやシーフードのうまみ成分を使う。
- ・低栄養だがお粥しか食べられない方
- お粥に無味無臭のMCTオイルやたんぱく質のパウダーをまぜる。

My お食事ノート (兵庫県栄養士会発行)

- ・療養者の栄養や食事に関する情報や経過記録などが記載できる。
- ・退院の時などの連携ノート等、療養者ご本人やご家族、医療職や介護職との情報共有ツールとして活用して欲しい。

第4回

笑顔のゲンキ (がんばる介護職！)

今回は、株式会社セラピットの佐竹裕輔さんを訪ねて、お話を伺いました。

今は法人本部のお仕事をされているとのことですが、介護業界に入られた経緯を教えてください。

体育大学在学中にフィットネスクラブのトレーナーや病院で運動指導のアルバイトをしたことはあったのですが、就職は介護とは関係のない営業職に就きました。

その後、やはり学んできたことを活かそうと「健康運動指導士」という民間の資格を取得し、当法人がリハビリ特化型デイサービスの運動指導員を募集していたので応募しました。介護職員として一般的な介護の仕事をしながら運動指導をしていました。

当法人は資格取得の奨励制度がありますので、4年目に介護福祉士の資格を取得し、その後、介護支援専門員実務研修受講試験にも合格しました。今は、現場を離れて法人本部の仕事していますが、介護職員の研修なども担当しています。



今の会社に就職されるまで、介護の仕事についてどう思われていましたか？

デイサービスという言葉などは知っていましたが、もっとレクリエーション中心の高齢者がのんびり過ごす場所のようなイメージを持っていました。リハビリ特化型なので特にそうなのかも知れませんが、就職して、高齢の方が機能回復を目指して懸命に努力されている姿に感動し、そのお手伝いができることをうれしく思います。

介護の仕事の魅力、やりがい等を教えてください。

介護の仕事は、利用者様の自立支援に向けた目標に向かって、本人を含め支援者がチームで取り組むので、その成果や喜びをチーム全体で共有できます。利用者様の身体機能が改善したり、生活が変わっていく様子を目の当たりにし、利用者様から感謝されたり、喜びを共有できるなど、自分の仕事の成果をダイレクトに感じることができます。仕事を通して社会貢献しているということもやりがいに繋がります。

年齢、性別、学歴に関係なく、いつからでも始めることができ、本人の努力次第でキャリアアップできることも魅力だと思います。

仕事で困っているようなことはありますか？

介護保険制度改正、報酬改定が頻繁にあるので、先の指針を明確に出せないというところが辛いですが、シルバーサービスはどんどん需要が拡大しているので、介護報酬だけに頼らない、高齢者の役に立つような事業を幅広く展開できる可能性があると思います。

こちらの職場は若い方が多いそうですね。

介護職、リハビリ職、看護職等色々な職種の職員がいますが、スポーツ系の大学や専門学校を卒業した新卒者も多く採用しています。新卒者以外も採用していますが、20代、30代の職員が中心となって活躍しています。

託児所もありますので、女性は出産し、育児休暇を取得して職場復帰する職員が多いです。法人としても、経験を積んだ職員に戻ってきてもらうと安心です。

若い人に、もっと介護に仕事についてもらうために、伝えたいことはありますか？

介護業界はまだ新しい業界でもあり、今後、ますます高齢者が増えることは確実なので、新しいことにも色々チャレンジできる業界だと思います。教えられた仕事だけをするのではなく、自分で考え、提案して、行動できる仕事なので若い人にもどんどんチャレンジして欲しいと思います。

体育大学出身の佐竹さんはがっしりした体格の頼もしい方でした。チームで成果を共有できる喜びを大切にされ、「チャレンジ」という言葉を何度も使われて、若い人にもっとチャレンジする気持ちを持って欲しいというエールは、スポーツマンらしい視点だと感じました。

中央区健康福祉フェア「ハートフルフェスタ2017」に出店しました

協会では、市民の方に介護についてもっと知ってもらい、介護現場への理解とイメージアップを図るとともに、将来的な介護人材確保に繋げるための取り組みとして、平成 29 年 12 月 3 日（日）に神戸市勤労会館で開催された中央区健康福祉フェア「ハートフルフェスタ 2017」に出店しました。

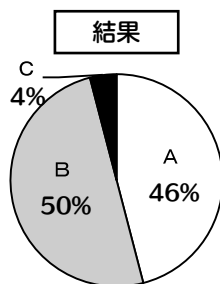
当日は、1,400 人の市民の方が来場され、協会では 7 階会場において、介護の現状や介護の仕事についてのパネル展示を行い、来場者にアンケートを実施しました。また、8 階では、車いす体験、高齢者疑似体験、福祉用具クイズを実施し、他の出店者にもご協力いただきスタンプラリーも実施しました。

アンケート&パネル展示(7階)

アンケート1.

将来あなたが、介護が必要な状態になったら、どこで介護を受けたいですか？

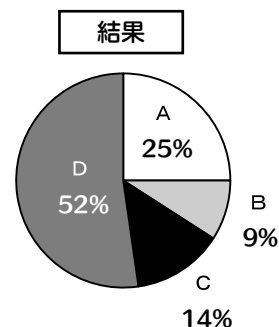
- A. 家族やヘルパーに介護してもらいずっと自宅にいたい。
- B. 設備の整った施設で、専門職に介護してもらいたい。
- C. その他(別居している子供の家や故郷に帰る等)



アンケート2.

あなたの周り(自分、家族、友人)に、介護の仕事をしている人、家族の介護をしている人はいますか？

- A. 介護の仕事をしている人がいる。
- B. 家族の介護をしている人がいる。
- C. どちらもいる。
- D. どちらもいない。



介護の現状と、介護の仕事についてのパネル展示を行い、来場者に説明も行いました。要介護の家族がおられる方など、熱心に説明を聞かれていました。

車いす体験 高齢者疑似体験 福祉用具クイズ(8階)



滑らかな床では操作しやすい車いすも、ちょっとした段差を越えるのが難しいことや、マットの上では動かしにくいということを感じてもらえたようです。

「何に使う道具でしょう？」小さい子どもたちも一生懸命考えてくれました。その道具の使い方と必要な理由には、大人が感心して納得！



視野が狭くなり、手足が重く曲がらないと、少しの距離を進むのも怖いと感じておられるようでした。子どもたちにも、お年寄りの気持ちが少しは解ってもらえたでしょうか。

たくさんの方にご来場いただき
ありがとうございました。

◆スタンプラリー参加者 126名

協会では、今後も介護現場への理解・介護人材確保に向けた市民啓発活動を行ってまいりますので、関係者の皆様方のご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

協会の活動状況

◆ 9月から1月までの動き

平成29年		
9月	6日	第3回介護現場への理解・介護人材確保に向けた 市民啓発を考える小委員会
	11日	平成29年度第3回在宅サービス部会
	14日	平成29年度第3回在宅介護支援サービス部会 平成29年度第3回施設サービス部会
	21日	平成29年度総会・第1回全体研修会(参加者66名)
	28日	介護現場で知っておきたい医学知識研修会 part 1 1日目(参加者96名)
10月	30日	在宅介護における口腔ケア実習(参加者20名)
	5日	平成29年度第4回運営委員会 ※流会
	12日	第4回介護現場への理解・介護人材確保に向けた 市民啓発を考える小委員会
11月	26日	介護現場で知っておきたい医学知識研修会 part 1 2日目(参加者96名)
		平成29年度第2回全体研修会(参加者114名)
		平成29年度神戸市高齢者介護士認定証授与式
	7日	平成29年度神戸市高齢者介護士認定者・認定試験・合格者 と関係者の意見交換会
		平成29年度第3回神戸市高齢者介護士委員会

11月	9日	平成29年度第4回在宅介護支援サービス部会
		平成29年度第4回施設サービス部会
	13日	平成29年度第4回在宅サービス部会
	16日	介護現場で知っておきたい医学知識研修会 part 1 3日目(参加者84名)
	21日	第5回介護現場への理解・介護人材確保に向けた 市民啓発を考える小委員会
12月	29日	在宅介護における感染予防研修会(参加者21名)
	3日	中央区健康福祉フェア「ハートフルフェスタ2017」に出店
	7日	平成29年度第5回運営委員会
	14日	介護現場で知っておきたい医学知識研修会 part 2 1日目(参加者58名)
1月	11日	第6回介護現場への理解・介護人材確保に向けた 市民啓発を考える小委員会
		平成29年度第2回神戸市との意見交換会
	17日	平成29年度第4回神戸市高齢者介護士委員会

◆ 今後の予定(期日確定分のみ)

平成30年		
1月	25日	介護現場で知っておきたい医学知識研修会 part 2 2日目
2月	1日	平成29年度第6回運営委員会

参加費
無料

平成29年度 第3回全体研修会のご案内

救急時の連携と対応

～介護従事者として、その時慌てないために～

日 時: 平成30年3月10日(土) 14:00～16:30

内 容: 講演「高齢者救急の現状と課題～救急隊が困った事例など～」

講師: 神戸市消防局中央消防署消防防災課 救急係長 戸田 太 氏

グループワーク「介護現場における救急時の対応と連携について考える」

会 場: こうべ市民福祉交流センター 2階 201教室

定 員: 180名(先着順)

申込方法: 協会ホームページより申込用紙をダウンロードし、FAXでお申込みください。



個別加入のご案内

協会では、下記の団体加入会員(団体一括加入)の7団体に加入されていない法人・事業所等で、神戸市内で活動を行う介護サービス事業者を運営する法人・事業者や介護サービス関連事業を行う団体を対象に、個別加入の受付を行っています。

詳しくは、協会事務局までお問い合わせ、または協会ホームページをご覧ください。

- 団体加入会員(団体一括加入)
- 一般社団法人 神戸市老人福祉施設連盟
- 神戸介護老人保健施設協会
- 公益社団法人 神戸市民間病院協会
- 神戸市シルバーサービス事業者連絡会
- 一般社団法人 神戸市医師会
- 公益社団法人 神戸市歯科医師会
- 一般社団法人 神戸市薬剤師会
- 上記の7団体に所属する会員

編集後記

ハートフルフェスタの福祉用具クイズで色々な福祉用具を知りました。「必要は発明の母」という言葉がありますが、ちょっとした工夫や発想の転換で不自由さが解消されるのだとわかりました。直接、高齢者を介護している方だけでなく、高齢者が使う用具を開発している方、高齢者を介護している人が使う用具や機器類、ソフトウェアを開発している方など多くの方によって介護の現場は支えられています。将来的な介護人材不足が見込まれる中、色々な機器やソフトウェア等により、マンパワーに頼る部分を減らすことができます。直接、人と関わる仕事が苦手という方もそのような形で高齢者介護の世界に入ってみませんか。(か)